

1 今年（H27）の傾向

総評・講評（大問毎に）

理系

- ① 文系図と共通であり、典型的。易しい問題である。（2次元数学）
- ② おおよそのイメージは聞きやすいであろうが、方針の決定、おおよそ記述の方法に気を遣う。完答は易しくない。（図形と方程式）
- ③ 教え上げるだけの問題。それだけに丁寧にやりたい。  
易しい。（確率）
- ④ 円微分方程式の類題を演習していれば有利だったであろう。  
導関数の定義はしっかりと理解しておかなければならない。  
（微分法、積分法）
- ⑤ 整数値多項式とその派生の問題で、標準的である。  
（複素数と方程式）
- ⑥ 定積分と不等式、極限との融合は本学では頻出であり、  
今年度、前期日程でも出題されている。標準的である。  
（微分法・積分法）

総評 前期日程と同等の難度であった。

今年度はベクトルが出題されなかったが、今後も頻出分野の  
一つであることに変わりないだろう。

その他の確率、数学Ⅴ前半（～図形と方程式）、おおよそ微積分は  
例年通り出題された。

2 合否ライン（予想）※他の教科が合格ラインをとったときの得点（%）予想

|     |      |
|-----|------|
| 理学部 | 60 % |
| 工学部 | %    |
| 医学部 | %    |
| 歯学部 | %    |
| 薬学部 | %    |
| 農学部 | %    |

3 来年受験する生徒へのアドバイス

- ・ 頻出分野に同じ、すべてが難しいレベルで演習を行っていき、
- ・ 計算量が多くなることもある。十分な計算力と根気をも身につけよう。